



先生の読書界

テーマ「高校時代に読んだ本／高校生におすすめの本」

公民科 青木建一郎 先生

『赤頭巾ちゃん気をつけて』 庄司 薫 新潮文庫

藤島高校の生徒だった頃、今の駐車場に木造平屋のもう倒れそうな建物があって部室が7・8個並んでいた。「長屋」と呼ばれていて先生は出入りしない生徒の自治区・解放区だった。そこに住みついて無駄と自由を満喫していた住人たちは、誰かが面白い本を見つけると競って読んで論評し合った。例えば庄司薫『赤頭巾ちゃん気をつけて』。主人公の兄は「自由でしなやかな」「知性」の持ち主丸山真男の弟子で、大学は何をしているところかと聞かれて答える。「要するにみんなを幸福にするにはどうしたらいいのかを考えてるんだよ」

理科 島田直子 先生

『柿の種』 寺田寅彦 岩波文庫

日常のなかの不思議を研究した戦前の物理学者で、随筆の名手としても知られる寺田寅彦の176編の短編集。日常生活の中でふとした感想や印象を、よそゆきでない言葉でスケッチした文章です。序説に「なるべく心の忙しくない、ゆっくりした余裕のある時に一節ずつ間を置いて読んでもらいたい」とあるとおり、就寝前のほんの一時、短い一節を楽しんでください。ものの見方や考え方に新しい窓を開いてくれる、そんな一冊です。

数学科 前田瑛士 先生

『頭を鍛える5つの習慣』 水上 颯 三笠書房

東大王の水上さんが頭をよくするために実践した事を記録した本。1章の「勉強の習慣」では「時間より成果重視」「その勉強は持続可能か?」「なぜ今勉強するべきなのか?」など、藤島の子達が普段考えている事に対する水上さんの考えが記されています。個人的には2章の「読書の習慣」の内容もお勧め。

英語科 門前秀洋 先生

『The Catcher in the Rye (キャッチャー・イン・ザ・ライ)』 Jerome David Salinger (サリンジャー) 村上春樹：訳 白水社

そもそもこの本のタイトルだけならば、中学生のころには知っていた。かのジョン・レノンを撃ったマーク・チャップマンは、警察が彼を取り押さえるまで道の真ん中でこの本を読んでいたらしい。その話は、当時ビートルズを熱心に聞いていた私には衝撃だった。それから私は大学生になり、ついにこの本を読むことになる。結果、チャップマンの思考(なぜあの時この本を読んでいたのか)は何一つ理解できなかった。が、この本の主人公の心の揺らぎは、まさに青年期のそれそのもの、一読に値する。